

# 地域リハビリテーション支援センターだより

## (神奈川県リハビリテーション支援センター)

2021年 4月発行 NO-83

地域リハ支援センター



# 温故知新



今年は3月に入り桜の開花とともに暖かな日が続くようになりました。新型コロナウイルスの感染拡大は続いており、第4波の感染拡大もニュースになっているところでこの一年を振り返ると“コロナ禍”一色でした。本来なら春が訪れ、巷には賑やかさがあふれているはずですが、どこか閉塞感が漂っています。

今から約100年前の話ですが、1918年3月にスペイン風邪の第1波が北半球を襲いました。いわゆるスペインインフルエンザのパンデミックの始まりです。春から夏にかけて流行し、感染性は高かったものの致死率は低かったようです。以前から季節性の感冒はありましたが、流行期を過ぎても収束せず、いつもと違うことに人々が気づき始めました。そして秋にはヨーロッパと米国で同時に第2波が始まり、10倍の致死率を示し、死亡例の99%が65歳以下の年齢層でした。1919年の始めに第3波が始まり、肺出血を伴う肺炎による死亡例がペストの再来と恐れられました。当時は第一次世界大戦の最中で、多くの軍人が大陸間を移動し、抗生物質は発見されておらず、有効なワクチンなどは論外でした。

1933年になって、やっとインフルエンザウイルスが分離され、この感染症の正体がわかりました。今のような医学的な手段も公衆衛生上の手段も確立しておらず、当時は患者の隔離やマスクの着用・個人衛生と集会の禁止という手段しか無かったようです。このような状況下で労働者の大量欠勤により、生産能力が大きく低下し消費の低下と社会機能の麻痺・患者の大量発生と医療者の感染で医療崩壊に陥っていたそうです。結果、WHOによれば世界の人口の約30%何億人もの感染者数と致死率2.5%以上で、死亡者数4000万人以上となりました。日本でも当時の内務省の統計では2300万人の感染者と38万人の死亡者が出たと記録されています。

コロナウイルス感染症でも、同じようなパンデミックの状況を世界中で繰り返しています。当人も人との接触を避け、マスクの着用・集会や会食を避けることで、一旦は感染が収束するかに見えますが収束には至りません。その後WHOはアジアインフル（1957年）香港インフル（1968年）と2回パンデミックの発生を報告しており、ワクチンと治療薬が完成して初めてインフルエンザウイルスのコントロールが可能となりました。今の私たちもウイルス感染症に対して地域社会生活を送る中でコロナウイルスにかからない・うつさないという原則で対応しています。

今回のコロナウイルス感染症は高齢者に重症化の傾向が強く、重症化のリスクの高い人々は閉じこもりがちになり、身体的・精神的予備能が低下するフレイル状態に陥る危険性が高いと思われます。今一度自身の健康管理に目を向け、十分な感染予防策を取り、身体能力の維持に努めることが大切です。

フレイルの予防と身体機能の低下を防ぐため、日々の暮らしの中での工夫をしてゆくにあたり、神奈川県リハビリテーション支援センターが一助になればと考えております。



地域リハビリテーション支援センター  
所長 村井 政夫

# 2021年度 地域リハ支援センター 職員紹介

## 地域支援室メンバー

引き続き今年度も落ち着いた状況ですが、地域からのニーズに答えられる活動を行いたいと思います。(PT 小泉)

いまだコロナの影響が大きいですが、その中でも知恵をしぼって地域の方々に貢献できるようにがんばります！(OT 清水)



感染がやまない状況ではありませんが、相談には丁寧に対応していきます。よろしくお願いいたします。(SW 小川)

今年度も地域リハ支援センターの縁の下の力持ちでがんばります。研修のご参加お待ちしております！(事務 砂川)

今年度から神奈川県リハビリテーション協議会の位置づけが、神奈川在宅医療推進協議会(神奈川県地域包括ケア会議と合同開催)の部会となります。地域包括ケアシステムの進化・推進には地域リハビリテーション体制の更なる充実が必要です。地域における課題にスピード感を持って対応できるよう企画を進めていきます。(副所長 磯部)

## 高次脳支援室メンバー

高次脳機能障害がある方がリハビリをされている病棟も担当させていただいているので、受傷・発症から間もない時期から退院後の生活まで、長い視点で支援に関わっていきたいと思います。よろしくお願いいたします。(SW 植西)

本年度も相談支援コーディネーターを務めさせていただきます。今年で15年目となりますが、マンネリ化しないように、新しいことにもチャレンジしていきたいと思っています。

昨年はジャグリングにチャレンジしましたが、今年は何をしようかな…そっちかい!!!(コーディネーター 瀧澤)

今年度より新たに高次脳支援室の担当となりました、神奈川リハビリテーション病院心理科の山岸です。病院で培った知識や技術を地域支援に役立てていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。(心理科 山岸)



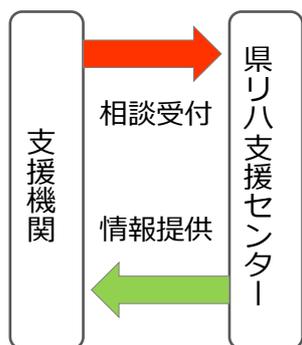
その方の置かれている環境や状況に応じて出てくる課題や困り感はさまざまです。そういった高次脳機能障害への支援をチーム一丸となって今後さらに充実させていければと思っています。よろしくお願いいたします。(コーディネーター 永井)

神奈川リハビリテーション病院職能科に所属しております。職能科は、医療機関の中において、医師の指示に基づいて職業リハビリテーションサービスを提供しております。よろしくお願いいたします。(職能科 松元)

高次脳機能障害の対応はその理解を深めることが鍵とされています。高次脳機能障害は多くの因子が絡むので、単純なモデルでは説明しにくいのですが、少しでもわかりやすく示せるように、チームで知恵を絞っていきたいと思います。今年度もよろしくお願いいたします。

(室長 青木重陽 リハビリテーション科医師)

# リハビリテーション専門相談



同行訪問



対象者

障害のある方や高齢者の  
介助方法の検討・福祉用具、  
住宅改修などに関する  
助言をさせていただきます。

☎ 046-249-2602

月～金 9:00～17:00 (無料)

## 2020年4月～2021年3月までの専門相談件数 累計

	脳性麻痺	神経・筋疾患	脳血管障害	脊髄障害	骨関節疾患	後天性脳損傷	知的障害	内部疾患	視覚障害	その他(不明)	合計
県央	2	24(10)	6(1)	1	1	4(2)	27(8)		3	4	72(21)
湘南東部		5(1)	1	3(2)			3(2)				12(5)
湘南西部		11(1)	5(1)			4(2)			2	5	27(4)
県西		5(1)	1	12(4)	1				1		20(5)
横須賀・三浦		3(1)		1	2				2	1	9(1)
合計	2	48(14)	13(2)	17(6)	4	8(4)	30(10)	0	8	10	140(36)



	本人・家族	行政機関	医療機関	訪問看護	介護居宅	介護地域包括	介護事業所	高齢者施設	障害相談支援	障害者施設	教育機関	福祉機器業者	その他	合計
県央	6	3	1	7(2)	17(11)	1		1	5	30(8)	1			72(21)
湘南東部	1	3(1)		2						3(2)		3(2)		12(5)
湘南西部	5			7(2)	4	1		4	3(2)	1			2	27(4)
県西	3			9(1)	2			1	5(4)					20(5)
横須賀・三浦	5	1	1		2(1)									9(1)
合計	20	7(1)	2	25(5)	25(12)	2	0	6	13(6)	34(10)	1	3(2)	2	140(36)

( )の数字は訪問の件数

昨年度は新型コロナウイルスに翻弄された1年でした。二度にわたる緊急事態宣言発令ということもあり、みなさまの所属される事業所では感染対策に追われ、とても当方への相談に至らなかったのではないかと推察いたします。そのような中でもお声をかけていただいた事業所の方には、コロナ禍の中で当事者の方のニーズが埋もれてしまわないよう訪問という形につなげてまいりました。本来は支援者への支援を中心にしていますが、個別の相談内容に特徴的な傾向が見受けられたので、お知らせしたいと思います。

ひとつは神経難病・重度肢体不自由者の方のコミュニケーション機器に関わる支援です。在宅生活、特に屋外への活動がままならない昨今、自宅でご家族・支援者とのコミュニケーションツールを再考する相談が多くありました。上肢をはじめとした全身状態の機能低下もさることながら、自宅内でのよりスムーズなコミュニケーションをより必要とされる場合があるのではと思われます。

もうひとつは知的障害者の施設からの相談です。全国的にも知的障害者施設の利用者の高齢化が指摘されていますが、活動性が大幅に制約されている昨今の状況であること、リハ職との接点が知的障害者の施設では少ないことやリハ職との関わりがあっても、個別のニーズには対応しきれず、施設担当者の方が一生懸命考えてもらった上で相談に至ったケースが多かったように感じます。

まだまだ感染状況には予断を許さない状況が続いていますが、今年度も訪問時には感染対策を万全にした上で支援する方との同行の訪問を継続していく所存であります。どうぞよろしくお願いいたします。

(小川)

# 2021年度 リハビリテーション専門相談について

リハビリテーション専門相談は、支援者の方々と現場に赴き、現場で問題解決のためのアセスメントを行っております。支援者・対象者の方とは現場で初めてお会いすることがほとんどであり、ニードや身体状況・さらにどのような支援が適切か…、を短く限られた時間で行わなければなりません。1度の訪問では問題解決がむずかしいこともあり、複数回訪問を行う場合もあります。

あらたに日程調整やこちらの準備も…となると、どうしても支援に時間がかかってしまいます。そこで昨年度から、事前に写真や動画を送っていただくなど詳細な情報収集を行うことで、より迅速・的確な支援が行えるような工夫をしています（個人情報取り扱いには細心の注意を払い、任意で行っております）。

また、昨年度までは訪問後4か月程で、支援者の方にアンケートのご協力をいただき対応について確認を行っていましたが、訪問対応した結果や効果までは確認できていない現状がありました。

そこで今年度からは、アンケート内容の見直し・送付時期も訪問1か月後に変更し、タイムリーに経過が確認できるようにしました。ご要望があれば、オンラインでの経過確認も行います。また、当センターの訪問対応の効果を確認するだけでなく、今後の継続支援の必要性も検討していきたいと思っております。



**是非、ご活用ください！**

（小泉・清水）

## 2021年度 6～7月 リハビリテーション専門研修



研修名	開催日時	定員	会場（研修形式）
知的障害者の身体機能低下への対応	6月8日（火）	30名	オンライン研修
高次脳機能セミナー：小児編	7月10日（土）	30名	オンライン研修
排泄ケアの知識と実践	7月21日（水）	30名	神奈川リハ病院
脊髄損傷者に対する基礎知識と支援の実際	7月予定	30名	神奈川リハ病院

状況によって、研修の形式が『オンライン』になります。それに伴い研修時間などが変更となる場合がありますので、ホームページをご確認ください。

今年度もよろしく  
お願いいたします！



### 編集後記

今年の桜はいつもより早い開花でした。リハ支援センターに隣接する神奈川県自然環境保全センターには46種もの多くの桜の木があります。開花時期もまちまちで、長い期間鑑賞できます。飴玉桜・嵐山・有明・楊貴妃・鬱金・関山・麒麟・一葉・松月・白妙・紅鶴桜・御車返などなど、桃・梅も多くの種類があり、とても華やかです。見に来てくださいと言いたいところですが、まだまだ、新型コロナウイルスの感染拡大は止まらない状況です。花見もマスクに消毒、密を避けての散策をお願いします。(y・i)

〒243-0121  
神奈川県厚木市七沢516  
神奈川県総合リハビリテーション事業団  
地域リハビリテーション支援センター  
☎ 046-249-2602  
FAX 046-249-2601